

JIS

転がり軸受—取付関係寸法及びはめあい

JIS B 1566 : 2015

(JBIA)

平成 27 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準第一部会 機械要素技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	高 増 潔	東京大学
(委員)	相 羽 繁 生	株式会社東郷製作所 (一般社団法人日本ばね工業会)
	市 川 直 樹	独立行政法人産業技術総合研究所
	川 井 謙 一	日本ねじ研究協会
	渋谷 眞 人	東京工芸大学
	千 葉 誠	一般社団法人日本フルードパワー工業会
	長 塚 淳	株式会社ニコン
	平 井 亜紀子	独立行政法人産業技術総合研究所
	堀 功	日本工具工業会 (日本光学工業協会)
	宮 島 義 嗣	大阪機工株式会社 (一般社団法人日本工作機械工業会)

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 40.7.1 改正：平成 27.3.20

官 報 公 示：平成 27.3.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本ベアリング工業会

(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 TEL.03-3433-0926)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

審議専門委員会：機械要素技術専門委員会 (委員長 高増 潔)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 量記号	2
5 取付関係寸法	2
5.1 軸及びハウジングの隅の丸み	2
5.2 軸及びハウジングの肩の高さ及び直径	2
5.3 軸受のサブユニットなどに対する取付関係寸法	3
6 はめあい	3
6.1 ラジアル軸受	3
6.2 スラスト軸受	3
附属書 A (参考) アダプタ付きラジアル軸受及び高負荷容量形ラジアル円筒ころ軸受の取付関係寸法	14
附属書 B (参考) 常用する軸及びハウジングの公差域クラス並びにはめあいに関する数値	19
解 説	34

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本ベアリング工業会（JBIA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS B 1566:1989** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

転がり軸受—取付関係寸法及びはめあい

Rolling bearings—Mounting dimensions and fits

1 適用範囲

この規格は、転がり軸受（以下、軸受という。）の取付関係寸法¹⁾及び軸受のはめあいの一般的基準について規定する。

注記 1 参考として、**附属書 A** にアダプタ付きラジアル軸受及び高負荷容量形ラジアル円筒ころ軸受の取付関係寸法を、**附属書 B** に常用する軸及びハウジングの公差域クラス並びにはめあいに関する数値を示す。

注記 2 ここに規定していない軸受の取付関係寸法及び軸受のはめあいについては、製造業者に問い合わせることが望ましい。

注記 3 取付部の真円度などの幾何公差については、使用条件を考慮して決めることが望ましい。

注¹⁾ 軸受の取付関係寸法とは、軸の軸受座及びハウジングの軸受座並びにそれらの隣接部分で、軸受の取付けに関する寸法をいう。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0104 転がり軸受用語

JIS B 0124 転がり軸受—量記号

JIS B 0401-1 寸法公差及びはめあいの方式—第 1 部：公差，寸法差及びはめあいの基礎

JIS B 0401-2 寸法公差及びはめあいの方式—第 2 部：穴及び軸の公差等級並びに寸法許容差の表

JIS B 1514-1 転がり軸受—軸受の公差—第 1 部：ラジアル軸受

JIS B 1514-2 転がり軸受—軸受の公差—第 2 部：スラスト軸受

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、**JIS B 0104** 及び **JIS B 0401-1** によるほか、次による。

3.1

内輪回転荷重

軸受の内輪に対して、荷重の作用線が相対的に回転している荷重。

3.2

内輪静止荷重

軸受の内輪に対して、荷重の作用線が相対的に回転していない荷重。